

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。突然、手紙を差し上げる失礼のほど、どうぞお許してください。このたび、手紙を差し上げますのは、現在取り組み中の調査研究に関しまして、貴協会に取材をさせていただきたく、その説明とお願いをするためです。

私ども、高崎経済大学地域政策学部宇田研究室では、今年度よりシックハウス問題をテーマに研究を開始しました。当研究の関心は、どのような問題認識と手続きによれば、各種事業の実施、環境の保全、多様な感受性をもった住民の共生という諸課題を同時に達成できるのかを、事例研究を通して検討することにあります。

貴協会は、穏やかな住まい方を実現するために、健康障害の調査研究、啓発活動をおこなうなど、先進的な取り組みをなさってきたと認識しております。そこで、お忙しいところ恐縮ですが、次のような諸点についてお話を聞かせていただけないでしょうか。

- (1) 貴協会設立のきっかけについて
- (2) 貴協会と他団体の協力関係について
- (3) シックハウス関係の相談件数と相談で多い内容について
- (4) 改正建築基準法による現在の規制に関するご見解について

私どもは、8月26日（日）より29日（水）まで、教員・学生合計11人で大阪府に参る予定であります。この期間内で、ご都合の良い時間にお話を聞かせていただければ幸いです。近日中に当方より電話を差し上げますので、ご意向をお知らせくださいますようお願い申し上げます。

また、これら主題に関連する資料がございましたら、差し支えのない範囲でご提供いただければ、誠にありがたく存じます。

なお、本研究は自らの責任において企画しているものであり、他からの依頼によるものではありません。また、この調査で得られた情報は、学術研究以外の目的に使用することは致しません。

お忙しいところ恐れ入りますが、何卒ご高配くださいますようお願い申し上げます。

敬具

2018年8月4日  
高崎経済大学地域政策学部宇田研究室  
准教授 宇田和子  
学生一同

NPO 法人 日本健康住宅協会

I 貴協会設立のきっかけについて

1. 1990年に「健康住宅推進協議会」として発足され、2000年にNPO法人「日本健康住宅協会」として設立されたとありますが、なぜ、シックハウスという言葉が盛んに使われるようになった1990年中頃よりも早く健康住宅に着目なされたのですか。
2. 講演会や、講師の派遣なども行っているそうですが、依頼は年に何回ほどあるのでしょうか。
3. 講演会やセミナーなどの反響はどのようなものがあったのでしょうか。

II シックハウス関係の相談内容

1. 相談は、全都道府県から受け付けておられるのでしょうか。
2. シックハウスの相談件数は何件ほどでしょうか、また、相談で多い内容は何でしょうか。
3. シックハウス症候群の患者さんには、長い間家にいるご年配の方や専業主婦の方が多いという意見がありますが、実際に相談に来られる方はこういった属性の方が多いのでしょうか。

III 建築基準法改正について

1. 建築基準法の改正により、ホルムアルデヒドなど13種類の化学物質に室内濃度指針値が設けられるなど、化学物質の使用が規制されることにより発生する弊害はあるのでしょうか。
2. 全部屋を異なる素材で建築することのご見解について
3. 経済状況を度外視した場合、最も理想的な住宅とはどのようなものなのでしょうか。

IV 貴協会と他団体の協力関係について

1. 正会員団体に積水ハウスや大和ハウスなど大企業の名前がありましたが、中小企業で会員になられている団体はあるのでしょうか。
2. シックハウスや化学物質過敏症に関しては、肯定派、中立派、否定派と意見が大きく分かれますが、敵対する団体などはあるのでしょうか。
3. 現時点で特に注目しているテーマは何でしょうか。